

# 多高通信

第128号 平成28年3月24日発行

## 祝 38回生卒業おめでとう!!

3月1日、多賀城市長・菊地健次郎様ほか、たくさんのご来賓の方々のご列席を賜り第38回卒業証書授与式が行われ、3年生279名が多賀城高校を卒業しました。

小泉博校長は式辞で、卒業生への餞として、法政大学の坂本光司先生の著書「日本でいちばん大切にしたい会社」にある、チヨークを製造している日本理化学工業の大山会長の話を紹介しました。



養護学校から2人の女子生徒を採用した際のエピソードを通し、「幸福とは、人に愛されること、褒められること、役に立つこと、人に必要とされること、そして、愛されること以外は働くことで得られる」ということを述べました。

送辞 鈴木菜々子(2年3組 高崎中出身)

入学して間もない頃の私たちは、不安や緊張で胸が詰まっていた。しかし、先輩方が明るく気さくに接してくださったおかげで、高校生活が明るくなる兆しを垣間見ることができました。多高三大行事では、よりよいものにしよとぎりぎりまで試行錯誤し、全てに全力でぶつかって楽しんでる姿は今でも目に焼き付いています。

また、毎日遅くまで教室や図書室で勉強に励む先輩方の姿からは、理想の進路を実現することの厳しさを教わった気がして、身の引き締まる思いがしました。

時に優しく、時に厳しく今日まで私たちを導いて下さった先輩方は私たちの目標でした。この多賀城高校をより良い学校にすべく頑張っていくのでぜひ見守っててください。



保護者へ感謝の気持ちを込めた合唱

答辞 阿部拓人(3年5組 向洋中出身)  
多賀城高校は、学習、行事、高校生活すべてにおいて良き伝統に守られ、それを40年かけて発展させてきました。私たちも先輩方からバトンを受け継いできました。

が、それを皆さんにリレーします。これまでの伝統を守りつつ、新たな伝統を皆さんの手で作ってほしいです。私たちは今日卒業しますが、卒業は終わりではなく新しい物語の始まりです。苦しいことや壁にぶつかることもあるかもしれませんが、多賀城高校で学んだことを活かし、乗り越えて行こうと思います。

## 東北の受けつぐ未来へ

わがいちから。そして未来へ

3月8日から13日まで、東北電力グリーンプラザ・アクアホールで行われた東北電力が主催の『東北の受けつぐ未来へ』で、本校の活動の様子パネルで紹介されました。若者支援プロジェクトパネル展示コーナーとして、復興に向けて若者が中心になって立ち上げた団体や、若者を応援する取り組みを行う団体の活動を紹介します。本校の他にも、岩手県の団体や福島県の団体など5つの団体がパネルで紹介されました。



会場では並行してイベントや写真展、復興支援グッズ販売なども行われており、来場者が足を止めてパネルに目を移していました。

## 東日本大震災 追悼集会

3月11日、14時より本校体育館において「東日本震災追悼集会」が行われました。はじめに学校長より講話があり、「震災の記憶を風化させることなく、後世に語り継ぐ役割が私たちにあります。」と、今春開設される災害科学科の意義と多賀城高校の使命の重さについて話がありました。その後、多賀城市の黙祷の放送に合わせ、14時46分に全員で黙祷をささげました。

引き続き、今年度の防災・減災に関するこれまでの取り組みの中から、3月に兵庫県・国立淡路青少年交流の家で行われた「平成27年度全国防災ジュニアリーダー育成合宿」、3月4日から6日に三重県の津リージョンプラザで行われ合唱部が参加した

「東日本大震災5年の集い」復興への道のり、愛媛県立東温高等学校より寄贈された桜の苗木の植樹の様について、そして1月に兵庫県公館で行われた「ぼっさい甲子園」の、4つの取り組みについて活動報告がありました。



防災ジュニアリーダー育成合宿の報告発表

合唱部 今野結唯(1年2組 高崎中出身)  
3月5日、三重県のみえ防災・減災センターが主催した震災復興・交流イベントへ合唱部の生徒に出演依頼があり参加しました。合唱と語りで被災地からのメッセージを伝え、伊勢市立五十鈴中学校の合唱部の生徒たちと合同合唱を行い、交流しました。

私たちは合唱を通して被災地の思いを届け、人と人の心を繋げるために宮城から三重に行きました。その中で私は三重県の方たちと交流し、身の引き締まる思いがしました。それは、東日本大震災のことを忘れず、被災した人たちのことを思い流してくれる人々がいることを知ったからです。新幹線や電車を乗り継いで6時間かかる遠い場所で、私たちが想像していなかった人と人の繋がりがあり、三重県の方たちは宮城県の私たちにとても温かく真剣に向き合ってくれました。



五十鈴中の生徒との合同合唱

これからも今回のイベントテーマにもあるように、中学生や高校生のような若者が震災のことを忘れないようにメッセージを繋いでいかなければなりません。これから被災地に住む私たちは「支援」という形で何かを与えられるばかりではなく、日々の生活の中でさまざまなことに全力で取り組むことで、支えてくださった方々に勇気や希望を返すことができる存在になれたらと感じました。

## 心の復興コンサート

丹野えみり(2年1組 塩竈一中出身)

3月12日、市営桜木住宅集会所で「心に花を咲かせよう」東日本大震災 心の復興コンサート」に出演しました。

この桜木住宅の集会所で12月にクリスマスコンサートを行いました。今回は私たちに、COCO花(仙台市立原町小学校校柵の木児童合唱団のOB)と心に花を咲かせよう合唱団の総勢70名で歌うコンサートになりました。聴いていただいた人数も前回より多く少し緊張

しましたが、楽しんで歌うことができたと思います。震災のことは決して忘れることができません、私たちの胸に深く刻み込まれています。苦しくて諦めず前へ進もうという気持ちを桜木の皆さんに合唱を通して伝わっていたらうれしい限りです。

## PIE2016に参加しました

3月13日、仙台市若林区にあるNTILAG 東北イノベーションセンターで行われた Post-disaster Innovation Forum 2016 に生徒会の生徒4名と卒業生2名が参加しました。午前中のワークショップでは、県内外の高校生が大地震に対する対策について意見交換を行いました。午後のグッド減災賞優秀賞受賞団体によるプレゼンテーションでは、必要な人に必要な支援を必要分だけ届けるシステム「スマートサプライ」を開発した一般社団法人 Smart Survival Project が最優秀賞に輝きました。各団体のプレゼンテーションのあとは、発表者とのディスカッションを行い、交流を深めることができました。



ワークショップを通して実際に震災を経験した私達が当たり前だと思っている事と関東の人達が当たり前だと思っている事に違いがあることを感じました。また、震災当時の被災地以外の様子を聞き、全国が被災地に目を向けて支援してくれていたことを知りました。今回のワークショップでは考えの幅を広げることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

岩佐 彩音(2年1組 多賀城中出身)

ワークショップを通して実際に震災を経験した私達が当たり前だと思っている事と関東の人達が当たり前だと思っている事に違いがあることを感じました。また、震災当時の被災地以外の様子を聞き、全国が被災地に目を向けて支援してくれていたことを知りました。今回のワークショップでは考えの幅を広げることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

## 国会図書館連携 特別授業

3月18日、国立国会図書館の職員を講師にお招きし、国会図書館が運営する東日本大震災に関するあらゆる記録や報告書、大学・学会等の研究成果などを一元的に検索できるポータルサイト「ひなぎく」を用いて特別授業を行いました。

